

成願寺

季報

118

平成30年11月1日
(2018年)

目次

「自らが観音様になる」宮寺守正	1
中野区立北原小学校三年生来山	7
成願寺付属中野たから幼稚園土曜研修会の報告	7
「中野たから幼稚園の今」今坂 愛	8
小笹会学生研究報告「私の研究」澤口右樹	9
山内短信	12

発行 多宝山成願寺
〒164-0012 東京都
中野区本町 2-26-6
電話 03-3372-2711
制作 地人館

平成三十年春の観音詣り説教

自らが観音様になる

埼玉県金澤寺住職 宮寺守正老師

大本山總持寺での修行時、私が寝食共にした同期宮寺師は、總持寺の前に福井県永平寺でも研鑽なさっていました。十数年前には全日本仏教青年会の理事長も歴任され、経験と知識豊富で僧侶のお手本である方です。今回の私たちの参拝にあわせてわざわざ寺の由来などの動画を作成し、にこやかな表情で一言一言丁寧にお話しいただきました。

合掌 副住職 小林要介



埼玉県金澤寺住職
宮寺守正老師

秋の観音詣り「東北のパワースポット巡拝」参加者受付中

日程…十一月十二日(月)～十四日(水)の二泊

会費…六万八千円(税込)

十二日 六時半集合出発―出羽三山神社にて山伏の案内と三神合祀殿昇殿祈禱―龍神様を守護神としてお祀りする祈禱道場善寶寺に拝登―檀信徒会館泊

十三日 善寶寺にて朝のお勤め参列―世界一のクラゲの種類を展示する加茂水族館見学―古寺巡礼などで知られる写真家・土門拳の記念館見学―酒田舞子の踊りを鑑賞しながら昼食―即身仏が安置される向海寺参拝―温泉番付東の横綱鳴子温泉・鳴子ホテル泊
十四日 東北の本山と称される正法寺に拝登・山主の盛田正孝老師よりお説教―世界文化遺産・中尊寺参拝―わんこそばの昼食―成願寺二十時帰着予定

※檀家以外の方でも、どなたでもご参加いただけます。

※早朝出発のため、成願寺への前泊も受け付けます。

※一泊のみの参加も受け付けます。お問い合わせください。

ようこそお詣りくださいました。副住職様とは修行を一緒にさせていただきました。本日は久しぶりの再会となりました。少し緊張もいたしますが、このお寺のことからまずはお話をさせていただきます。そのあと、様々な観音様に関する話に進みたいと思います。

この比企郡鳩山町の付近は、もともと窯業の一大産地として栄えたと伝わり、「南比企窯跡群」と呼ばれる遺跡がございます。陶質土器であります須恵器や瓦などが数多く発掘されています。

天平十三（七四一）年に聖武天皇が全国に「国分寺を建てなさい」と命じられました。武蔵野国分寺の屋根に敷いた瓦は、このお寺のすぐ西脇にあった「金澤窯」で焼いたと伝わっております。

江戸時代文化・文政期（一八〇四～一八二九）に編まれた『新編武蔵風土記稿』という地誌の金澤寺の項には、「建保六（一一二八）年に正達和尚によって開創された天台宗のお寺」と記載がございます。

「金澤窯」が栄えていた頃に信仰の対象として存在していたお寺が起源となりますが、何宗のどういった寺であったかという記録が残っておりません。荒れ寺であったものを、天台宗の正達和尚が改修した

ということであろうかと思えます。

その後、南北朝時代に後醍醐天皇が鎌倉幕府倒幕のために挙兵をしまして、その武蔵野合戦にこのお寺も巻き込まれております。この裏手に、仮の御所を作り、そこから後醍醐天皇の六番目の息子であります宗良親王が征夷大將軍として出立したということで、奈良の吉野に南朝がございましたので、吉野と昔むかしの縁がございました。

また私は全日本仏教青年会の理事長をしておりましたが、私の前の理事長が吉野金峯山寺の五條良知猊下でございます。はるか昔のご縁と現代のご縁が重なったわけでございます。

実はちょうど本年が開創八百年ということで、十一月四日（日）に大祭を企画しておりますが、五條猊下をお招きし、護摩修行を執り行なっていたことになっております。

さらに、やはり全日本仏教青年会時代に大変親しくお世話になった東大寺の狭川普文猊下に表白を讀み上げていただきます。まだ少し先ではございますが、お二人の猊下にご来臨いただく大変ありがたいご縁ですので、ぜひまたお出かけいただければとお誘い申し上げます。

姿を変えて救ってくださる観音様の深い慈悲

このお寺のご本尊様は正観世音菩薩。みなさんご存知の観音様です。観音様のご説かれた経典はたくさんございまして、今、みなさんがお読みになった『妙法蓮華経観世音菩薩普門品第二十五』、別名「観音経」というのが大変有名かと思えます。この略本とされているのが『延命十句観音経』でございまして、たった四十二文字の短いお経ですが、これを当山では観音講のみなさんと毎月お唱えしております。

また、十一面観音様のことが説かれた経典に『十一面観世音菩薩随願即得陀羅尼経』というのがございます。これもよくお唱えされるお経の一つかと思えます。

これらのお経に共通して左記のようがございます。

衆生被困厄（衆生、困厄を被りて）

無量苦逼身（無量の苦、身に逼られんに）

観音妙智力（観音の妙智の力は）

能救世間苦（能く世間に苦を救う）

人々が様々な困難に遭い

はかりしれないほどの苦しみが身に迫る

観音様は優れた智慧の力によって

人々を世間の苦しみから救う

具足神通力（神通力を具足し）

廣修智方便（廣く智の方便を修して）

十方諸国土（十方の諸々の国土に）

無刹不現身（刹として身を現せざること無なし）

観音様は神通力を具えていて

広く方便の智慧を修めており

十方の諸々の国土に

お姿を現さない所はない

種種諸悪趣（種種の諸の悪趣）

地獄鬼畜生（地獄・鬼・畜生）

生老病死苦（生・老・病・死の苦は）

以漸悉令滅（以てことごとく滅せしむ）

観音様は色々な悪趣におもむき

地獄、餓鬼、畜生

生老病死の苦しみを

ことごとく救う

このように、観音様の救ってくださる力というのは、すさまじいものがございます。

ところで当山の正観音様は、一面二臂。我々と同じ、一つの顔と二本の腕を持っておられます。三十三のお姿に変化される観音様の中の基本のお姿です。

観音様は、三面六臂や、八面六臂、十一面千手観音とか、千手千眼観音、千手千臂観音といろいろなお姿があります。

お付き合いのある、真言宗のお坊さんと「なぜこんなに顔も眼も手も増えたのだろうか」という話をしたことがございますが、みなさんの願いが多すぎて顔も手も足りなくなりました。それで増えていったんだという見解に落ち着きましたが、それほど深い慈悲を持っておられるということかと存じます。

観音様を助ける存在

私は毎年東大寺様に拝登しております。東大寺といえは盧舎那仏・大仏様ですが、修二一会（お水取り）で有名な二月堂のご本尊は、大観音、小観音と呼ばれる二体の十一面観音像様です。二月堂の少し

下に三月堂、法華堂とも呼ばれますが、こちらには不空羅索観音がお祀りされています。

両方の手に綱を持っていて、その綱が下がっているその先が輪っかになっていたり、鉤になっていたりします。なぜそんな物騒なものを持っているのかと思いましたが、なかなか仏教に顧みないような方であっても、その綱に引っ掛けて救ってくださる。観音様の救ってくださるという強い慈悲が、執念のようにも感じますが、ここで多羅菩薩をご紹介します。と思います。

チベット仏教の教えでは、観音様が「自分がいくら修行しても、衆生は苦しみから逃れられない」と悲しんで流した二粒の涙から生まれたのが多羅菩薩と言われています。右目の涙からは白ターラーが、左目の涙からは緑ターラーが生まれ、女神であります彼女たちは「衆生の済度を助ける」と発願し、観音様は悲しみを克服したと言われています。

日本においては、ターラーとはサンスクリット語で「眼睛」、瞳を意味し、観音様の瞳から放たれた慈悲の光から生まれた菩薩様とされています。密教寺院に祀られる両界曼荼羅のうち胎藏曼荼羅にそのお姿が描かれています。

ところで、観音様は頭上に化仏けぶつをお持ちになつて
います。観音様は本来は勢至菩薩とともに阿彌陀様
の脇侍ですので、観音様の頭上の化仏は阿彌陀如来
です。観音様ご自身は脇侍をお持ちではありません
が、原始仏教では観音様の手足となつて働く存在が
あることをご紹介させていただきます。

東大寺二月堂の観音様

先ほどお話させていただきました東大寺様の修二
会（お水取り）で、私もこの何年か修行させていた
だいております。二体の十一面観音像様のもとで行
なわれる大変尊い行ぎょうでありますので、少し紹介させ
ていただきたいと思います。

修二会は、本年度でなんと千二百六十七回目を迎え
ました。天平勝宝四（七五二）年に東大寺のご開山
良弁僧正らうべんそうじょうの高弟、実忠和尚じつしゅうわうしやうが創始してから一度も絶
えることなく、連綿と今日に至るまで引き継がれて
きたそうです。

旧暦の二月、本行では半月にわたり二月堂におい
て修行するもので、みなさんはニュースなどで大き
なお松明たいまつが火の粉を撒き散らしながらぐるぐると回
されるシーンでご存知かと思えます。

ですが本来は、十一面悔過けがと申しまして、十一面
観音様に懺悔ざんげするというのがこの行の主でございます。
これは、人間だれでも生きておりますと小さな
罪をたくさん持っています。みなさんも胸に手を当
ててみると、思い当たることがあるのではないでしょ
うか。自慢話をしてしまったとか、人の悪口を言っ
てしまったとか、食べ物や粗末に扱ってしまったな
ど、反省することなどありませんという人はたぶん
いませんよ。

ですので、仏教徒のみなさん全員でこの修行をし
なければならぬのですが、東大寺の選抜された
お坊さんおぼくさん練行衆れんぎょうしゆうと言われます十二名が、日本全国の
みなさんの罪を、みなさんに代わつて十一面観音様
に懺悔ざんげしてくださっているのです。

二月堂に伝わる縁起には、修二会の始まりが記さ
れていて、実忠和尚は、都率みやうりつ天で行われていた素晴
らしい行を目の当たりにし、娑婆世界でも同じよう
に修行したいと願い、行法の伝授を願つたそうです。
しかし、「この天の一昼夜は人間界の四百年にも及び、
行法のきまりは厳しく、日々千返の行道を怠ること
なく勤めなくてはならない。時間に限りのある人間
の世のこと、到底この行法を修めることはかなわぬ」

と断られてしまふんですね。しかし実忠和尚は諦めきれず、「勤行は調子を速め、行道の回数^{ぎょうどう}は走つても数を満たそう」と考えられた。ですので「走りの行」とも言われております。節をつけた独特なお経の読み方をするのですが、最初は「南無観自在菩薩」と丁寧なんですね。それがだんだん「南無観自在」、「南無観、南無観」とそれくらい縮めてお読みする。

そのお経の途中で練行衆の方が内陣から出てこれ、五体投地^{ごたいとうち}をします。五体投地、両手、両膝と額を地に投げて伏す、仏様や高僧に対して行なうものとも丁寧な礼拝で、成願寺様でも法要の際に方丈様がなさると思いますが、修二会でのそれは様子が違います。お堂の床に長い板が一枚置かれています。その板の上で練行衆の僧侶が飛び上がり、身体を丸めて激しくその身を打ち付けるのです。「どん！」と大きな音がいたしますので、長い法要の中にあつて、緊張感が走る五体投地なわけでございます。

これは、十一面観音様に人間の諸々の罪穢れを悔過（懺悔）する究極の行為で、十一面観音様に全とお任せするという表れであるそうです。

この非常に厳しい行が千二百六十七年もの間途切れることなく続き、我々仏教徒の罪穢れは、知らぬ

内に観音様の深いお慈悲により消し去つてくださっているのです。修二会の季節、ニユースでお松明の様子が流れましたら、この尊い行のありがたさと思いを馳せていただければと思います、ご紹介させていただきます。

懺悔と申しますと、私も僧侶は、毎月十五日と晦日に略布薩^{りやくふさつ}という法要を行ないます。みなさんの中で受戒をされた方もいらつしやるかと思いますが、その際に方丈様と大切なお約束をされたと思います。そして、そのお約束、戒を「よく保ちます」とお誓いをされたんですね。私たち僧侶も同じです。私たちも戒を授かつておりますので、きちんと守られているかを確認するのが略布薩という法要でございます。

この観音詣りにご参加のみなさんも、各地の観音様にお経をお上することで、日々の生活で反省すべきことがないか確認されていると思います。観音様を前に己の足元を確認して向かつている方向が間違っていないかと、自己反省をするということかと思ひます。どうかこのあとも、有意義な観音様のお詣りをお続けいただければと思います。本日はありがとうございました。

中野区立北原小学校 三年生来山

去る六月二十一日（木）、野方駅からほど近くの北原小学校三年生約四十名と校長先生をはじめとする引率の先生四名が社会科見学「中野区内めぐり」で来山しました。最初に当山裏手の防空壕を見学し、その後、住職より太平洋戦争とアメリカ空軍の大空襲について、お寺での生活についてお話がありました。

児童のみなさんからの質問タイムでは、「お寺に仏さまはどのくらいいますか」、「このお寺は何年前に建てられましたか」、「中野区には成願寺よりも古いお寺がありますか」、「防空壕には何人ぐらい入れるのですか」等の質問がありました。

最後に本尊様に「一生懸命勉強しましょう」と約束をして、



防空壕の見学



本堂でお話を聞く児童のみなさん

束を乗せ、児童を乗せたバスは次の目的地中野駅北口サンモール商店街へ向かいました。

成願寺付属中野たから幼稚園土曜研修会の報告

去る十月二十日（土）、中野たから幼稚園において、教職員の研修会が行なわれました。年に数回、土曜日の午前中に教職員同士の情報交換や、園内の改善点、各学年に必要な環境と援助などをテーマに研修を行ないますが、今回は特別講師として講師の日向ひまわりさんが来園されました。先生方の教養や



研修の様子



講師・日向ひまわりさん

見聞を広めることが目的でしたが、お客様に伝えることに心を砕く講談と、子どもたちに伝えることを大事にする先生方に共通点あり。小学一年のお子さん育てるママでもあるひまわりさんが先生方に教えられる場面も見られました。講談の演目は「そらいどうふ徂徠豆腐」。忠臣蔵外伝とも言われるお話で、食べるのも困るほどの貧乏学者と情にあつい豆腐屋の温かい交流を描いた物語。ひまわりさんの話芸に引き込まれ、有意義な時間となりました。

中野たから幼稚園の今

中野たから幼稚園職員 今坂 愛

長期休み後の幼稚園。久しぶりに会う友だちや先生にドキドキしたり楽しみにしたりと様々な子ども達の姿が見られます。

園生活のリズムを取り戻す目的もあり、八月末に夏季保育が行なわれます。

通常の保育とは異なり、自由登園であり、久しぶりの幼稚園という事で教諭はどんな保育をしようかと、子ども達にとってお楽しみな感覚や楽しく体験できる保育を考えます。

プールにスイカわりと、例年入る活動の他に、天候の関係で室内で過ごすことが多かった今年度。夏季保育のある一日、今年は偶然にも全学年「小麦粉粘土」の活動になりました。

年少から年長まで、子ども達は油粘土を個人持ちにしており思い思いに形を作って遊んでいます。小麦粉粘土は、食品に使う小麦粉に水を加えてこねる事で油粘土とは異なる感触、また食紅や絵の具で色付けできる楽しい活動です。

全学年同じ活動でも、取り組み方や、子ども達に



サラサラの小麦を触る年少組



水を加えてこねこね

体験してもらいたい観点が学年によって違いがあります。

年少組は、まず水を加える前のサラサラの粉の状態を楽しみました。机の上にも小麦粉を広げ、指で粉を動かすことで描ける楽しさ、また両手ですくって机に落としてみると、十分に感触を楽しめます。その後で水を入れて皆でこねて、少しづつ塊になり小麦粉粘土にしていきます。

年中組は、昨年度の経験もあったので、色が変わっていく事を楽しみながらこねていきました。食紅はほんの少量で色がつくので、小麦粉粘土と混ぜておくことだけの白色にしか見えません。魔法をかけて色をつけよう！と子ども達のワクワクする気持ちを引出しながら水を加えてこねていきました。

四色の綺麗な小麦粉粘土ができると、ケーキやクッキーなどに見立てながら何度も作って遊びました。

年長になると素材である小麦粉とは？ という点



ケーキやクッキーの形に

に触れ、いつも食べている小麦粉ってどんな食べ物かな？と話し合いながら、それを使って粘土を作る不思議さや特別感を楽しみました。

このように、幼稚園では一つの活動において、どんな内容が子どもたちにとつて楽しいか、不思議さに触れられるかと試行錯誤しながら日々の保育を行なっています。また、保育を振り返り、お互いの学年での取り組みの内容を伝え合い情報交換をしたり、お互いの良いところや改善点を共有しながら次の保育につなげていきます。

小笹会学生研究報告「私の研究」

イスラエルの軍事主義を巡るポリテイクス

―日常生活の視点から―

東京大学大学院総合文化研究科地域文化研究専攻博士課程

澤口右樹

二〇一八年五月、アメリカ政府が大使館をエルサレムに移転したことの宣言を発端に、パレスチナ自

治区ガザで抗議運動が起こった。この抗議運動に対し、イスラエル軍は催涙弾のみならず実弾を使用し、パレスチナ人に約六〇名の死者、また三〇〇〇人近い負傷者を出した。この死傷者の多くは一〇代から二〇代の若いパレスチナ人であり、催涙ガスを吸引して死亡した幼児も含まれている。パレスチナにおいて、これほどの規模の死傷者が発生したのは二〇一四年のガザ戦争以来であり、前述のアメリカ政府の大使館移転問題と関連し、多くのメディアでこの事件は取り上げられた。

ただし、その多くは「パレスチナ人のアメリカ政府によるエルサレムへの大使館移転に対する抗議運動」としてのみ説明している。この説明はあくまでも問題の一部に過ぎない。イスラエル・パレスチナ問題とは、一九四八年五月一四日にイスラエルが建国したこと、そしてその前後に祖国から追放され、難民となった約七五万人のパレスチナ人の七〇年の受難、すなわち「ナクバ（アラビア語で大災厄の意）」の問題である。二〇一八年はパレスチナのナクバ七〇年の節目であり、世界各地でパレスチナへの連帯運動が行われている。例えば、ベルリンのブランデンブルグ門では約三〇〇〇人の市民によるイスラエ

ルの攻撃を非難するデモが行われた。また日本でも、東京文京区において五月一九日に「パレスチナ学生基金」によるナクバ七〇年をテーマとする講演会が行われ、一〇〇名を超える市民が参加した。

国際的にみて、このイスラエル・パレスチナ問題は高い関心を持たれていることが分かる。しかし、こうした一般の関心は、アメリカの外交政策や、中東の国際関係というマクロな視点に向けられているように感じられる。また、地域という視点でも、パレスチナへの市民的連帯という観点のため、パレスチナの悲劇的状况に問題関心が集中している。この時、イスラエル・パレスチナ問題のもう一つのアクター、そして加害者であるイスラエルへの関心は、もっぱら国内政治やアメリカとの外交関係のみであり、イスラエルにまつわる分析はマクロな現状分析に留まっている。特に、イスラエルがなぜ軍事的手段を用いてまでパレスチナを抑圧するかについては、右派政治の影響という表面的すぎる指摘に終止している。

筆者の研究は、上記の問題意識を背景に、イスラエル政治・社会・文化におけるイスラエル国防軍「IDF (Israel Defense Forces)」の影響力に注目してい

る。よく知られているように、イスラエルでは男女両性への普遍的徴兵制を有するため、一八歳以上のイスラエル人は二から三年の兵役義務がある。このため、イスラエルの市民生活ないしイスラエル人の日常生活には、軍隊の影響が色濃く反映される。例えば、就職活動において、面接でどの部隊に所属したことが聞かれたり、また兵役中に形成された人的ネットワークによつて就職が決まったりする。それ以上に、イスラエル人として「一人前の大人」になる通過儀礼として、兵役は機能している。これは兵役に行かない一部のイスラエル人に対し、ステイグマを与え、社会から排除する機能を意味する。

こうした「IDF」が市民社会、日常生活に与える絶大な影響力を、イスラエル地域研究では軍事主義と定義し、研究がなされている。パレスチナに対して軍事的手段による問題解決を図る政治的姿勢、そしてこれへのイスラエル人の支持背景に、軍事主義がしばしば指摘されてきた。しかしながら、イスラエルの軍事主義にまつわる研究課題として、(1)ジェンダーやセクシュアリティへの不十分な関心、(2)宗教派の影響力の過大ないし過小評価、(3)前述二点と関連する日常生活が軍事主義へ与える影響への関心

の欠如、という二点が指摘できる。

筆者の研究は、女性兵士の兵役経験の語り、宗教派の兵役経験に注目することで、(1)と(2)の問題を解決することを目指す。女性の軍への参加は、近年女性兵士の戦闘部隊への参加拡大として見られ、LGBTの存在も指摘されつつある。同時に、これまで宗教的な理由のため兵役を拒絶していた宗教派イスラエル人もまた、ナシヨナリズムの影響のため軍に参加している。

両者の軍との関係は、いかなる政治・社会・文化的文脈の影響下にあるのか、その相互関係はいかなるものなのかを解き明かすことが筆者の研究のテーマである。

本研究は同時に、人々の日常生活の視点から、イスラエルの軍事主義を解き明かす試みでもある。つまり、軍事主義が日常生活に一方的な影響を与えているのではなく、相互関係によってお互いが形成されていることを示す。この研究によって、イスラエル・パレスチナ紛争の加害者イスラエルをより理解することができ、なぜイスラエルはパレスチナと和平を進められないのかという大きな問いへの示唆を与えることが出来る。

こうした研究を進めるため、筆者は二〇一八年七月よりイスラエルにおいて二年間の現地調査を行う。主にエルサレム・ヘブライ大学に所属し、ヘブライ語を習得しながらインタビューを実施する予定である。ここでは、可能な限り多くの社会階層のイスラエル人からインタビューを行い、兵役への態度、評価などを聞く。

また彼らと日常生活を共にする中で、どのような兵役や軍にまつわる政治的・社会的問題を問題として認識しているかを観察する。

イスラエルの軍事主義を理解する試みのためには、長期に渡る現地滞在が不可欠であり、こうした地域に滞在する機会を与えてくださった小笹会に感謝申し上げます。本稿の結びとしたい。

了

学術研究振興基金「小笹会」へのお問い合わせ

趣旨：小笹会は、佛教ならびにアジア、アフリカ地誌を中心とする学術研究振興助成と、勉学の志に燃える学徒の生活相談という二大目的を持つ。その対象も佛教徒を中心に、広く内外に門戸を開放する。

※問い合わせ、応募要綱、願書をご希望の方は、FAX

〇三(三三七二)二七四へお問い合わせください。

折り返しご連絡差上げます。

山内短信

◎行事予定

十一月十二日～十四日 観音詣り
十二月 一日～二日 一泊坐禅会

十八日 納めの観音祈禱会 お説教と懇親会

この頃 観音堂清掃(お手伝い募集)

三十一日 除夜の鐘、引き続き新年祈禱

一月十三日 大般若祈禱会

一月十八日 初観音祈禱会 懇親会

◎お能教室 生徒募集

人間国宝梅若実に師事し、観世流能楽師師範で日本能楽協会会員の野崎美歩師が観世流梅若謡曲・仕舞の指導を行ないます。

お能は、日常の立ち居振る舞いのルーツともいえる日本人の身体の動かし方の宝庫。能に親しい方はもちろん、心と身体の健康に興味をお持ちの方、ぜひご参加ください。

毎月第二土曜 時間は問い合わせてください。

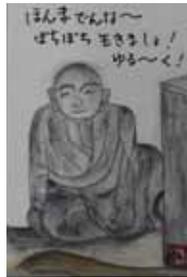
会費 三回 八千円

問い合わせ先 ○九〇(四二二七) 四〇四一

◎「絵手紙」の会来山



山手通りを挟んだ反対側にある本一高齢者会館において、日本絵手紙協会公認講師・高平和子さんの指導で「絵手紙」の教室が開催されています。去る五月二十五日、当山境内の石仏を写生しに教室のみなさんが来山されました。後日、温かみ溢れ



「絵手紙」が会館に展示されました。

教室に関する問い合わせは本一高齢者会館(〇三―三三七三―一九五八)まで。

◎遠距離在住の檀信徒・幼稚園卒園生の御家族へ

ご家族に病人が出、東京近辺の病院で治療を要する時、介護者の在京宿泊に苦心されることが多いと存じます。そこで空き室二ヶ所用意し、できる限り手助け致します。寺務所にお問い合わせ下さい。

【対象】檀信徒親族、中野たから幼稚園卒園者家族

【部屋代】無料(光熱費など実費はご負担下さい)

【期間】最長二ヶ月(相談による)